

「落花生」生育情報（臨時報）

～ 基本技術を励行して収量増加！ ～

平成27年8月4日
千葉県農林水産部
生産振興課

1 管理のポイント

早急にかん水しましょう！

千葉県では、7月中旬から気温が高く、降水量は極めて少ない状況です。

7月下旬～8月上旬は、落花生の子房柄が伸長して地中で莢ができ、莢実が肥大する時期に当たります。この時期に干ばつ害を受けると、空莢や未熟粒が発生し、収量が大きく減少します。

また、採種する場合は、幼芽褐変症が発生しやすくなり、種子に発芽障害が生じます。

収量を低下させないために、早急にかん水を実施しましょう。

かん水は週1回を目安とし、1回のかん水量は、30ミリ以上の「十分なかん水」を心がけましょう。

2 生育状況

8月1日現在の農林総合研究センター落花生研究室における生育状況は、着莢期^{※1}～莢肥大期^{※2}となっており、生育は平年より3日程度早くなっています。

また、褐斑病の発生はやや多く、白絹病及び茎腐病は少ない状況ですが、発生すると収量が低下します。

圃場をよく観察し、被害株の抜き取りや、圃場からの持ち出し等の適切な防除^{※3}を心がけましょう

※1 落花生の子房柄が伸長して地中で莢ができる時期

※2 落花生莢実が肥大する時期

※3 7月21日発行の「落花生」生育情報第1報を参照ください。